

インド巡礼

釈尊の生涯をたどる

二 橋 進

八 雲 書 房

二橋 進（にはし すすむ）

大正15年，静岡県に生まれる。現在，在家佛教協会主任。著書に詩集『残酷な愛情』，編訳書『一休 狂雲集』などがある。

〔現住所〕鎌倉市二階堂 262—8

インド巡礼

昭和51年10月10日 第1刷発行

著者	に	はし	すすむ
	二	橋	進

印刷所	大文堂印刷株式会社
製本所	(株)宮田製本所
発行所	八雲書房

東京都千代田区神田
錦町3丁目14番地
大文堂ビル内
TEL (291) 3425

© Susumu Nihashi 1976

1026-1011-8531

インド巡礼

釈尊の生涯をたどる

二 橋 進

八 雲 書 房



序
詞

旅

旅

—インド巡礼—

1

雪山^{せつさん}に真紅の太陽が昇った
恒河^{がんが}の霧^きは断^きれて水面が光る

おお

わたしは仕度をしよう インドの旅の

マップ ノート フラースク ボックス・ランチ

そして 珠数

旅は軽装がよろしい サンガラスも磨いておこう

わたしの旅は幾日つづくのであろうか
旅程表 それは仮のもの

永遠の旅のなかの 旅

わたしの靴の底で 埃をあげて

地球が軋む

原野に点在するマンゴーの林は
しきりと 朝露を落としている

2

仏陀は 遊行をつづけた

大地に影をひいて

ヴァーラナシー（波羅捺） ラージャグリハ（王舎城）

ヴァイシャリー（毗舍離） シュラーヴァステイ（舍衛城）

禪定 行乞ぎょうこつ そして

中道を説いた

四諦たいたい八聖道はしやうどうを説いた

縁起を説いた

説法には虚言がなかった

神話も 奇蹟もなかった

生もある 老もある 病もある 死もある

わたしたちの 人生に

安穩の船を浮かべた

この船出は 永遠の旅のなかの 旅

3

傘を広げたような 菩提樹

葉かげを透して わたしは観る

二五〇〇年の昔を

青に刷かれた空

直線的に射す陽

その下 くすんだ赤のサリーをまとい

水入れの真鍮の壺を頭に

婦人は去った

きつと 仏陀も歩ゆまれたのであろう

その道は 白く幹いていた

4

カラコルム山脈 パミール高原 タクラマカン砂漠

揚子江 黄海 東シナ海

あるいは ガンジス河 ベンガル湾 南シナ海

驢馬であれ 帆船であれ 果しなく 遠い旅

だが

大地を叩いた実が

水蓮のように花を開かせたとしたら

それは わたしの足許を照らす

一筋の光

おお

わたしの旅がはじまる インドへの

5

ブッダン サラナン ガッチャーミ (仏に帰依し奉まつる)

ダンマン サラナン ガッチャーミ (法に帰依し奉まつる)

サンガン サラナン ガッチャーミ (僧に帰依し奉まつる)

わたしは わたしの声を 追う

その先

リスのとまる灌木の林

ヤギのあゆむ草原の襞

農夫は 溜め水で 牛を洗う

夕映えが榕樹をかすめる

すると

コウモリが舞うであろう 粘土造りの家に

そこは

仏陀の国 インド

わたしは わたしの旅をつづける

目次

序詞 旅……3

第一章 大いなるインド……15

インド第一歩……17

精力的と怠惰的の交叉……25

ガンジスのデルタ……33

ヒンドゥー教とインド社会……40

ヒンドゥー教の聖地……50

ヒマラーヤへ……60

心の故郷……68

貧者の一灯……78

第二章

ルンビニー……87

雪山の麓のサーキャ族……89

釈尊の誕生……95

ルンビニー園にて……108

出家を志す……119

第三章

ブツダ・ガヤー……129

ブツダ・ガヤーの大塔……131

道を求めて苦行する……135

正覚を開く……145

ブツダ・ガヤーをめぐる歴史……162

ネーランジャラー河は北流する……173

第四章

サールナート（鹿野園）……………187

われは勝者なり……………189

ブツダ・ガヤーからサールナートへ……………192

初めて法輪を転ずる……………198

鹿の棲む園……………208

ヴァーラナシーの街……………219

伝道をはじめる……………224

第五章

ラージャグリハ（王舎城）……………235

ビンビサーラ王の帰依……………237

マガダ国の都城……………241

王舎城の悲劇……………255

ラージャグリハの今日……………264

釈尊の伝道の拡がり……………271

第六章 クシナガラ……………279

サーラの林・涅槃堂へ……………281

最後の旅……………290

務め励めよ……………302

釈尊略年表……………320

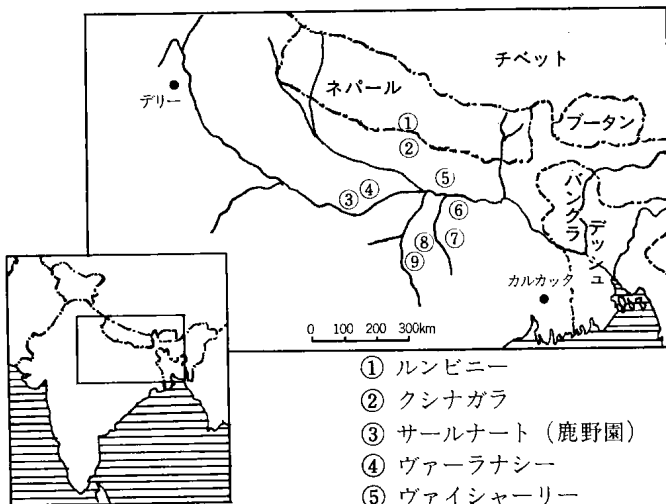
―インド仏蹟巡礼コース案内―……………322

あとがき……………326

口絵 表 初転法輪釈迦像（サルナート考古博物館）

裏 裏 苦行釈迦像（ラホール博物館）

表紙装丁 椎野利一



- ① ルンビニー
- ② クシナガラ
- ③ サールナート（鹿野園）
- ④ ヴァーラナシー
- ⑤ ヴァイシャーリー
- ⑥ パータリプトラ
- ⑦ ラージャグリハ（王舎城）
- ⑧ ガヤー
- ⑨ ブッダ・ガヤー

第一章

大いなるインド